

# 2023 白鳥中学校校内研修計画

## 1 主題「互いに支え合い、ともに高め合い、活動できる生徒の育成」 ～わかる・伝える授業の実践を通して～



## 2 主題設定の理由

### 地域・家庭・生徒の特性

#### 【地域・家庭の特性】

- 挨拶や行事に取り組む姿勢に対して、学校運営協議会の方々による理解、評価、がある。
- 地域の方々の協力がある。(挨拶運動、ボランティア活動)
- 家庭との意思疎通ができています。「家の人には、わたしの考えや気持ちをわかろうとしてくれる」:87%

#### 【生徒の強み】

- 挨拶ができる。「家や近所で挨拶をしている」:92%
- 優しく、素直である。「人が困っているときは、進んで助けている」:92%
- 働きかけると頑張ろうとする。「自分もやればできるという思いをもっている」:85%、「やると決めたことは最後までやり通す」:84%
- 教師の思いが伝わる生徒が多い。「先生は良いところを認めてくれていると思う」:94%、「学校の先生は、勉強や学校生活について、きちんと指導してくれる」:95%

#### 【生徒の弱み・課題】

- 家庭学習が不十分である。「学校のある日に家でどのくらいの時間勉強しているか」ほとんどしていない～30分以内:45%
- 読書量が少ない。「学校の授業以外で、10分以上読書をしている」:45%
- 読解力、自らを表現する力、自ら課題を探求し解決する力が弱い。

※数値は、「安心して学べる学校アンケート」生徒回答のもの。

### 学習場面での生徒や教師の意識

#### 【生徒回答】数値比較は市内平均との差(令和3年度実施)

- 「めあて」があると授業が分かりやすくなる +1.8p
- 授業の最後に「ふり返り」時間があると何を学習したか、何ができるようになったか、自分で確認することができる +0.7p
- 授業中、自分の考えと比較しながら、友達の考えを聞いている +1.3
- 授業では、自分の考えや疑問を発言しやすい雰囲気がつくられている -1.4p

#### 【教師回答】

- 授業の中で、本時の「めあて」を生徒に明確にしている -4.8p
- 授業の中で、生徒が本時で何を学習したか、何ができるようになったか、自分で確認できるような「ふり返り」を設定している -6.1p

生徒の強みや、家庭・地域の特性から、生徒は前向きで頑張れる姿勢があり、地域の大人や教師との信頼関係も築けている。また、学習面においても、生徒は日々の授業の中で学びの実感を持ったり、仲間との関わり合いをもったりすることができている。しかし、アンケートの結果から、授業の中で、「めあて」の提示と「ふり返り」活動の実施において、生徒と教師の意識のずれが生じていることが明らかとなった。また、学習する環境において、他者との関わりやすさや発言のしやすさにおいて課題が見られた。これらを学校の課題としてとらえ、学習する環境づくりを教師・生徒ともに作っていきたいと考えた。

### 3 目指す子どもの姿

○「支え合う」と「高め合う」を、次のように定義します。

支え合う	高め合う
<ul style="list-style-type: none"> <li>・傾聴の姿勢をもって、対話的・協働的な活動ができること。</li> <li>・対話的・協働的な活動を通して、課題解決に臨むこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いを通して、他者の考えを理解し、互いの考えを広げ深められること。</li> <li>・協働的な学びを通して、情報を精査し、自分の考えをもつこと。</li> </ul>

○「支え合う」と「高め合う」目指す子どもの姿を、次のように設定します。

支え合う姿	高め合う姿
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の意見を聞き、受け入れ、認めながら、自分の意見を伝えることができる。</li> <li>・課題解決に向けて、それぞれが、これまでに得た知識などをもとに、自分の考えを言葉や図など、様々な方法を使って伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動などを通して、自分の考えを見直したり、他者と比較したりする中で、新たな考えをもつことができる。</li> </ul>

○各教科において、教科の見方・考え方をふまえた“目指す子どもの姿”を具体化します。

### 4 重点項目

- ① 研究授業や公開授業の実施, 日々の授業改善【授業力 UP5★の5つの視点をもとに！！！！】
- ② 学力向上委員会と教科部会, 研修部との連携(『全国学力・学習状況調査, みえスタディ・チェックの分析』を通して)
- ③ 各学年部で家庭学習の充実(授業と家庭学習の関連付け, 一人一台端末の活用も併せて)
- ④ 生徒の主体性・自己肯定感を育む学校活動の実践(体育祭・文化祭・学級活動を通して)
- ⑤ 生徒指導, 教育相談, 人権教育, 道徳教育などの教員研修の実施

### 5 校内体制

#### ① 授業改善

- ・「めあて」と「ふりかえり」の質の向上
- ・わかる・伝える授業の実践(「授業力 UP5★」に沿って)
- ・ユニバーサルデザイン(視覚支援, 指示の見える化など)
- ・研究授業, 公開授業, 校内授業公開期間等教員間での情報共有
- ・ICT 機器の活用と研修



『目指す子どもの姿』の実現

#### ② 学力保障, 家庭学習

- ・1, 2 年生: 一人一台端末を活用した家庭学習の実施(アプリケーション内ドリルの活用, ポートフォリオやスライド作成など授業内容とリンクした課題)
- ・3年生: 朝の学習への取組
- ・放課後学習の実施
- ・長期休みの補充学習の実施
- ・チーム・ティーチング体制
- ・テスト計画表の作成, ノーメディアデーの実施



### ③ キャリア教育

- ・生き方学習(外部からの講師を招聘)
- ・進路学習(各学年で実施, 職場体験学習の実施)
- ・キャリアパスポートの活用

### ④ 生徒指導, 教育相談体制の充実

- ・人とのかかわりを大切にする学校生活の充実(あいさつ運動, 学級づくり, 小グループの活用)
- ・自立, 公共心, 社会貢献を育む取組(ノーチャイムデーの実施予定, 学校行事, 部活動)
- ・年間3回 いじめアンケートの実施と即日対応
- ・年間3回 教育相談アンケートと教育相談期間の実施
- ・教員の生徒指導研修
- ・(鳴門教育大学連携)鈴鹿市アンケート
- ・携帯電話・SNS の利用や, 犯罪防止についての出前授業(外部からの講師を招聘)

### ⑤ 特別支援教育

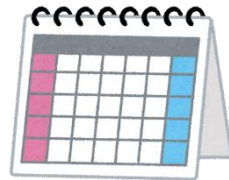
- ・すずかっ子支援ファイルの作成と活用
- ・引き継ぎ支援会議の実施
- ・小中連携ケース会議の実施
- ・家庭及び関係機関との連携や講習会の実施
- ・教員の教育相談・特別支援教育に関する研修
- ・特別支援教育やユニバーサルデザインの視点をふまえた授業づくり



### ⑥ 人権

- ・年間計画に基づく道徳授業の実践
- ・校区人権フォーラムの推進, いじめ防止標語の取組
- ・人権作文の取組

## 6 年間計画 ※別紙



## 7 公開授業について

- ① 年間2回の公開授業
- ② 鈴教研委託 研究発表
- ③ 校内プチ公開授業